

蒲生干潟自然再生全体構想の見直しについて（課題・取組）

蒲生干潟自然再生協議会運営事務局

1 進捗状況

(1) 協議会での確認事項

令和7年6月7日（土）に開催した第20回蒲生干潟自然再生協議会において、とりまとめの方向性が承諾された。

- ・現構想で掲げる将来像及び課題を生かしつつ、近年のトレンドなどを入れる。
- ・「水交換」は多くの意見があり、早期の取組を見据え、重点的に位置づける。
- ・干潟生態系の変化を把握するため、モニタリングの継続を課題として設定する。
- ・発信先を明確にし、資金面なども意識してとりまとめる。

(2) 現地検討会の開催

令和7年9月20日（土）に現地検討会を開催し、現状や課題を確認した。主な確認事項は以下のとおりである。

- ・河川堤防の状況
- ・導流堤の水門の状況
- ・七北田川河口の閉塞状況
- ・砂浜植生の状況
- ・干潟の泥や底生動物、水交換等の状況
- ・利用者の影響
- ・淡水源の状況 など

2 課題・取組の案（たたき台）

上記を踏まえ、課題、それに対する取組、取組によって期待される効果を整理した。

なお、第20回蒲生干潟自然再生協議会において、確認された自然再生の目標は以下のとおりである。

- 1 多様な生物を育む干潟の保全、復元
- 2 湿地を維持する水循環の再生
- 3 砂浜環境の保全・回復
- 4 環境活動・環境教育の推進および主体の交流する場の創出

目標 番号	課題	取組	効果
1	定期的に起きる河口閉塞は、塩分など干潟に生息する生きものへの影響がある	監視・モニタリングと連絡体制を整理し、河口閉塞が確認できた場合、速やかに河川管理者に連絡する	対応が早くなることで閉塞期間が短くなり、生きものへの影響を軽減できる
1 2	干潟の水の交換量や水の容積が小さく、泥も溜まっている	水門の開閉管理、ラグーンの奥部や砂浜側の掘り込み及び砂浜へ盛り直し、水門のカキ殻除去による高さ管理を行う	干潟の水交換が良くなり、干潟の生物多様性が向上（シギ・チドリ類等の採食・休息環境の改善）
1 2	濔筋西側付近の地盤が高くなっている、泥が黒く嫌氣的な状況で水交換が悪い	濔筋を掘る、地盤を削るなど水交換状況の改善を図る	干潟の水交換が良くなり、干潟の生物多様性が向上（シギ・チドリ類等の採食・休息環境の改善）
1 3	平坦で低緑被な砂礫地が減っておりコアジサシ等の営巣環境が減っている	計画的に砂浜植生を管理し、砂礫地を整備する（一部区域の除草・移植）	貴重な砂浜植生と鳥類の共生が図られる

目標 番号	課題	取組	効果
1 3	クズや外来生物(イタチハギなど)等の繁殖力の強い植物が広がっている	計画的な刈り払いなどにより、過度な繁殖を抑制する	生物多様性の低下を防ぎ、多様な干潟環境の維持につながる
4	生きものの採取、BBQの実施、サーファー・釣り人の侵入、犬の散歩など、鳥類への悪影響がある	普及啓発看板の設置や自然共生サイトへの登録などにより取組の認知力を上げる	干潟保全に配慮された利用環境を整えられる (コクガン越冬環境の改善など)
1 2 3 4	蒲生干潟の生態系は、変化し続けている	継続したモニタリングを実施する	変化を早期に確認することで、協議会として対策を立てやすくなる

3 その他

上記取組については、滞筋を掘るなど費用がかかる取組もある。

公的資金による整備が難しい中、民間資金の活用を考える必要がある。

方法例として、自然共生サイトに登録し、取組を支援してもらえる体制を整える等が考えられる。